

稲作情報 第7号

令和 7年 7月 18日
射水市農業技術者協議会

- ・的確な水管理で稲体の活力を維持しましょう！
- ・適期防除で病害虫の被害を防ぎましょう！

＜コシヒカリの生育状況＞

- ・7月15日の調査では、草丈は平年並、茎数はやや少なく、葉色はやや淡くなっている。
- ・幼穂形成期は、平年並の7月10日頃、出穂期は8月1日頃の見込み。

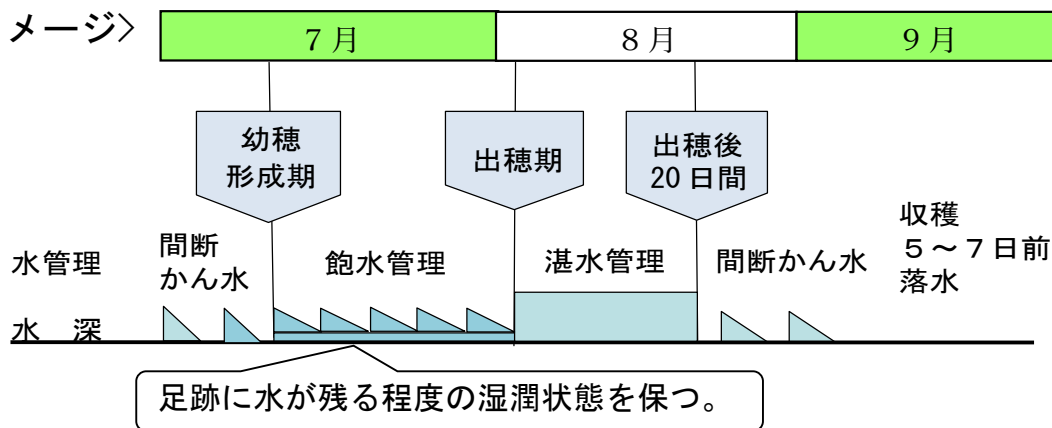
コシヒカリの生育状況（射水管内7か所の平均：7月15日調査）

	田植日	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	幼穂 形成期	出穂期 (予想)
			本/株	本/m ²				
R7	5/10	80.0	22.9	429	12.6	3.9	7/10	(8/1)
R6	5/12	80.7	23.9	442	12.7	4.1	7/12	8/2
平年	5/13	80.1	24.9	458	12.8	4.0	7/10	8/1

1 水管理（水管理のイメージ）

- ・幼穂形成期から出穂期までは、稲体の活力を維持するために「飽水管理」を行う。ただし、葉色が濃い場合は間断かん水とする。
- ・出穂期から20日間は、「湛水管理」（水深3cm程度）を確実に行う。
- ・フェーンの場合は、事前に入水する。

＜水管理のイメージ＞



2 「基肥一発肥料」施用圃場の追肥

出穂7～10日前頃の葉色が4.0以下（砂壤土は4.2以下）と淡い場合は、走り穂の時期までに追肥を行い、穂揃期の葉色が4.2～4.5になるように誘導しましょう。

追肥施用の目安（出穂期が8/1の場合）

判断基準 出穂7～10日前頃の葉色	施用時期 (出穂3日前まで)	肥料名 10a 当たり施用量	目標葉色 (穂揃期)
7/24～27頃に4.0以下 (砂壤土は4.2以下)	走り穂が見える頃 までに (7/29頃まで)	「追肥3号」または、 「流し込み追肥化成ららく」 7kg	4.2～4.5

3 本田防除

- (1) 斑点米カメムシ類やいもち病の防除のため、品種別の出穂状況に応じて、適期に防除しましょう。
- (2) 水田内にノビエやホタルイがあると、カメムシの被害を助長するため、水田内の除草も行いましょう。
- (3) 「てんたかく」では追加防除を実施しましょう。

《粉剤・液剤体系》 品種別の防除時期

品 種 出穂期(予想)	コシヒカリ (8/1頃)	てんこもり (8/3頃)	新大正糯 (8/11頃)
1 回目	【出穂期】 8/1頃	【出穂直前】 8/1頃	【出穂直前】 8/8頃
2 回目	【穂揃～傾穂期】 8/8頃	【穂揃期】 8/8頃	【穂揃期】 8/15頃

防除薬剤と散布量

体系	粉剤	液剤
1 回目	ビームスタークル粉剤 5DL 4 kg/10a	ビームエイトスタークルゾル ブーム等 1,000 倍液 150ℓ/10a ドローン 8 倍液 0.8ℓ/10a
2 回目	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4 kg/10a	ラブサイド K2 フロアブル ブーム等 1,000 倍液 150ℓ/10a ドローン 8 倍液 0.8ℓ/10a
追加防除 (てんたかく)	スタークル粉剤 DL 3 kg/10a	スタークル液剤 10 ブーム等 1,000 倍液 150ℓ/10a ドローン 8 倍液 0.8ℓ/10a

《粒剤体系》品種別の防除時期（1 回のみ）および防除薬剤と散布量

コシヒカリ (出穂予想: 8/1頃)	てんこもり (出穂予想: 8/3頃)	新大正糯 (出穂予想: 8/11頃)	防除薬剤 散布量
【出穂の 12～10 日前】 7/20～22頃	【出穂の 12～10 日前】 7/22～24頃	【出穂の 12～10 日前】 7/30～8/1頃	フジワンラップ粒剤 4 kg/10a

◎粒剤体系では散布後 4～5 日間は湛水状態を保ち、7 日間は落水やかけ流しをしない。

防除の実施に際して

- ・風の少ない朝方又は夕方に、株元までかかるように散布しましょう。
- ・散布間隔は 10 日以上あけないよう、計画的に防除しましょう。
- ・周辺住民への事前の周知と農薬の飛散防止に努めましょう。

【お問い合わせ先】

JA いみず野営農指導課 TEL:52-6805 高岡農林振興センター射水班 TEL:26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp>